「同性婚」を神仏、宇宙のメシアはどう考えているか
―社会変革活動で、政治的救済の使命を果たそう―

幸福実現党
宗教的な視点からLGBT問題を考える連絡会議

1、人類を創られた創造主の願いとは

●人類創造―地球神は男女を分けられた

初めて人類が、五人、十人、百人、そして五百人と、続々と空中より出現した時、彼らを二つの集団に分け、**右半分の集団には、金星人の智慧と勇気の光を投げかけ、左半分の集団には、同じく金星人の優美さ、優雅さの性質を帯びた光を投げかけました。こうして人類の男性と女性が分かれました。**

(『太陽の法』／第1章　太陽の昇る時)

●地球では男女を分けて人生経験を豊富にするという目的がある

幸福の科学では「宇宙人リーディング」なども行っていますが、それによると、ほかの星のなかには、「男性」「女性」に加えて「中性」があるところもあれば、単性星で、「男女」はなく「単性」で生まれ変わりをやっているところもあります。そのように、いろいろな考えがありうることは分かってはいるのです。
それも分かった上で、**「ただ、この地球では女性と男性に分かれて生まれることによって、相対的に性を持つことによって、人生経験を豊富にするという目的を与えられている。基本はそういう考え方なのだ」**ということは申し上げておきたいと思います。
「例外」はあるかもしれませんけれども、**例外のほうが当たり前になって、そちらのほうがルールになったり、あるいは「ブームなのだ」というかたちで、あまり後押しが強すぎたりするのは問題ではないか**と思うのです。

(『自由・民主・信仰の世界』／第3章　未来への希望)

●男女、相対的に暮らしているなかで魂を磨き合え（天御祖神の教え）

「だから、男性だけとか女性だけの世界を創ればシンプルな世界ができるけれども、**男女を創ったことにより、この世の生き方は複雑になり、その調整も難しくなる。家庭を維持したり子孫を残したりすることも、困難なことになる。しかし、この複雑な問題集を解きながら、共に手を携えて理想的な国をつくっていくべく努力しなさい**」―そういうことを言いました。そういう意味で、「**男女、相対的に暮らしているなかで、魂を磨き合え**」ということを教えました。

(『地球を包む愛』／第1章　地球を包む愛)

2、同性婚をめぐる霊的真実

●同性婚はどこかに狂いがある

「男同士の結婚、女同士の結婚、あるいは両方あり」という、「男でも女でもある」とかいう世界を認めたあとの世界が、いったいどうなるのかということはちょっと分からない。**混乱が起きる可能性がある**し、まあ、**少子化対策**もありますが、例えば、「男と男が結婚した場合に、片方の男が、ほかの男と旅行したりした場合、これが不倫になるのか」というような裁判が起きたりするのを考えただけでも、頭がおかしくなってき始めるので、ちょっと、何か**どこかに狂いはあるのではないか**という感じは持っています。

(『「妖怪にならないための言葉」余話』)

●同性愛は、一種の「唯物論の変形」であり「神に対する反抗」（トス神）

基本的に、精神的な価値をあまり認めていないのではないかと思いますよ。やっぱり、一種の「**唯物論の変形**」だと思います。だから、男性同士、女性同士等の接触を、「快感・快楽」と感じる快楽主義者でしょう？もうひとつ霊的でもなく、精神的でもない。(中略)
だから、「**神に対する反抗**」なんですよ。「女性に生まれた」「男性に生まれた」ということに対して、異議申し立てをしているんでしょう？たぶん。だけど、それはできないんですよ。**生まれてくる前に計画を立てているから、本人が合意している**んですよ。
その条件で生まれてきているから。だから、それについて、**天を恨んでいるんです。親を恨み、天を恨み、社会を恨み、「自分の好きなようにさせろ」と言っている**ので。

(『イエス　ヤイドロン　トス神の霊言』／第3章　トス神の霊言)

●LGBTQ 関連で地獄が発生している（トス神）

「**ゲイも、それからレズも、あるいはバイセクシャル等、いろいろ言っているけど、やっぱり、あの世では、色情地獄と畜生道が混ざったような地獄ができていますよ**」ということ。
「すでにできてきていますよ」と。「そういうところで、肉体がないのに、肉体を通してしかできないことにふける人たちが、今のところ、**救えない状態にありますよ**」と。
今、地獄はすでにできているので。「この百年以内に分かる」とか言っていたけど、もうできてきているので。**今後、増えてくるのでしょう。**

（『イエス ヤイドロン トス神の霊言』／第 3 章　トス神の霊言）

3、LGBT 関連法案、同性婚の是非

●法律、条例などの制定は慎重であるべき

日本では、今、都道府県あるいは市などの条例レベル等で"同性婚"のようなものができるようになっていますが、**先に待っているものは、たぶん、あまりいいものではないのではないか**と思っています。
過去世で、はっきり男性・女性が違っていても、生まれたときにちゃんとその役割を果たしている人がいっぱいいるのを見て、「これは違うのではないか」と思うのです。
「男性が女性になり、女性が男性になることもよくある」というのは、やはり、何らかの意味で魂修行を平等にするために、平等権を与えるために行われていることであるので、**それは人間の好みで勝手に変えていいことではないのではないか**というふうに思います。ですから、慎重であってほしいと思います。

（『コロナ不況にどう立ち向かうか』／第 1 章　政治について言いたいこと）

●男女の区別をなくすことが平等ではない

憲法十四条、「国民は平等である」という平等権に基づいて、「男と女は結婚できるのに、男と男、女と女は結婚できないのは人間の平等性に反する」という判断をする人が裁判官には出てくるのだけれども、はっきり言って、**これは"頭がおかしい"と思います。**
そういう意味ではないと思うのです。**人間の平等は「仏性における平等」**であるし、「幸福になる権利を持つ」という意味では平等権は確かにあるけれども、**「男女の区別をなくすということが平等ということではない」**と思います。

（『コロナ不況にどう立ち向かうか』／第 1 章　政治について言いたいこと）

●同居権や財産権の問題と結婚の定義は別

私は、男性同士で気の合う人が一緒に家に住んで、同居しても別にいいと思うし、女性同士が住んでもいいと思うし、財産を譲りたかったら、先に死んだ人が遺った人に譲っても構わないと思います。
しかし、「**同居権や財産権の問題と、結婚の定義とは別だ**」というふうに私は思っているのです。
それはあげたい人がいたらあげたらいいし、自分の病気とかで看護などをしてくれた人に財産権をあげたいというのなら、それはあげてもいいと思うし、そういう法制度はありえるとは思いますが、**結婚の定義は違う**と思っています。

（『コロナ不況にどう立ち向かうか』／第 1 章　政治について言いたいこと）

4、まとめ　LGBT の権利拡大をどう考えるべきか

●少数者の権利を護ることは大事だが、同性婚の時代が本格化したら文明は衰退していく

少数者の権利を護ることは大事である一方で、それがメジャーになった場合には、**男女がこの地上に生まれたということの意味**がなくなり、**子孫を残すということの意味**がなくなり、**文明としては衰退していきます。**この流れ自体は決定的です。

（『正義の法』第 5 章　人類史の大転換）

●地球神の考えは、基本は「ノーマル」であるべき

某大手左翼紙のように、解離性同一性障害の人は、いくつかの心がある（男性、女性）といった論調は、「憑依」という宗教現象を魂のオリジナルな個性と誤解しているという間違いがある。
基本は「ノーマル」であるべきだ。しかし、そうでない者を「魔女狩り」する社会になるまで極端であってはならない。これが地球神の現在の考えだ。

（『フレディ・マーキュリーの栄光と代償』あとがき）

以上